



フォレストガーデンに取り組む農家の庭

(特非) 日本国際ボランティアセンター

カンボジアにおける 「フォレストガーデン」を 中心とした環境保全型農業の推進

一般助成

1年目

実践

フォレストガーデンの
モデル農家の育成 30世帯

集落等での苗木の
生産と植林活動 2,000本

活動の全体目標に
対する達成度 30%

課題

調査の結果、対象地域の共有林では10年間で12種類の樹木が姿を消していた。そこで、適切な森林資源管理の実施と森林資源の利用負荷を減らすことが課題となっている。

目標

フォレストガーデンの実践や植林活動などによって、利用できる資源を集落内で生産することで、対象地域の住民の過度な森林資源への依存が軽減されること。

活動内容

森林資源の減少を止めるためには、適切な森林資源管理の実施と同時に、森林資源利用による負荷を減らすために、食料や燃料として活用できる樹木を集落で持続的に生産することが重要である。そこで、地域の農家にフォレストガーデンを紹介し、樹木など多年生の植物を用いた自給用の食料や燃料の生産方法を紹介した。また、小学校の児童、教員と協力し、植林に利用する苗木の生産を行った。



かつての村の様子について話を聞く子どもたち

達成できなかったこと

植林活動を実施する前に、かつての村の自然資源の様子について学ぶ活動を実施したため、植林活動そのものは、次の雨季に延期した。

今後の展望

乾季の水不足が深刻な村におけるフォレストガーデンの実施のため、節水技術に加え、どの時期にどういった木や植物を栽培するのが適切であるのかを農家に紹介していく。

成果と工夫したポイント



成果

今年度は、当団体が運営する農業リソースセンターにてフォレストガーデンの事例づくりを行い、スタッフが農家を訪問して紹介を行った。また、集落内での植林活動などに利用する苗木約2,000本の生産を行った。

工夫

フォレストガーデンを紹介する際、栽培が容易でデザインを工夫しやすいプランター栽培を紹介した。